

1. コラム「論点提起」：スピードや如何

ビジネスの世界において、スピードは重要である。最近、製品・サービスがビジネスモデルに直結しているため、ビジネスモデルのシステム/デジタル化のスピードが企業のその後を左右する。システムそのものがビジネスモデルであり、製品・サービスという時代に、システム化を外注しているようでは立ち遅れる。世界のトップランナーやスタートアップ企業のビジネス変革・展開のスピードはそういった点で圧倒的である。

翻って、日本の実情はどうか。依然として、社内に IT 人材はほとんどいない。DX(Digital Transformation)と云いつつ、Transformation(変革)を伴わず、従来のビジネスモデルあるいは仕組み/手順をシステムに置き換えるだけのデジタル化にはさほど意味がない。DX のための手段/ツールであるシステム化が目的化しているレベルでは、ビジネスモデルの変革のスピードに追いつくどころか、システム化できたときには遺物となりかねない。しかも、デジタル化そのもののレベルにおいてさえも、世界のレベルから大きく遅れていることが今回のコロナ禍で露呈している。

同様なことは行政に於いても見られる。例えば、コロナウィルスが変異するスピードに対応が追いついていない。因みに、新型コロナウイルスは平均 15 日ごとに変異すると報告されている。(出典：NATIONAL GEOGRAPHIC 2020.03.31 <https://natgeo.nikkeibp.co.jp/atcl/news/20/033000204/?P=1>) 直近の最大のリスクであるデルタ株(インド株)の発生とその感染力の脅威がわかっているのに、発生国や周辺国からの入国禁止措置という水際作戦が実施されたのは、シンガポール(4/23 以降実施)に遅れること 3 週間後(5/14)であった。しかも、実態に合わない手続き・隔離策が実施されていたことが報道されている。緊急を要する事態が時々刻々変化しているのに、従来の仕組み・手続きにこだわっているのは感染拡大を止められない。オリンピック関係者対応も後手後手に回っている。

コロナ関係で言えば、新型コロナワクチン開発においてもその欧米企業と日本企業の開発スピードは圧倒的な差があり、日本企業によるワクチン開発はいまだ途上にある。開発されたワクチン接種が進む中、遅れを取ったワクチン開発は治験する事自体が難しくなる。そのスピードの違いは政府や企業(経営陣、取締役会)の意思決定のスピードにある。事態の的確な認識とその展開の見通し(想像力)、社会的責任感がその根底にある。(詳細は、7. Blog 仕組みの群像：コロナワクチン開発のイノベーションを参照されたい)

結局、官民を問わず、スピード感の違いは、リスク認識、責任感の違いにあるのではなかろうか。世の中が変わる、ビジネスモデルが変わる、平常時から緊急時に変わる等々におけるリスクを認識できなければ、対応のスピードは上がり「ゆでガエル」になる。リスク認識ができて、それに対処する責任感が個人、組織になれば、動かず、「ゆでガエル」となる。企業はスピードがなければ市場で淘汰されるだけであるが、行政はそうはいかない。特に、基礎自治体は住民の日常に直結するだけに、スピード感を持った対応が問われるが如何。